

第4学年 国語科学習指導案

単元名 物語を読んで、感想文を書こう

教材名 「三つのお願い」 ルシーラ＝クリフトン 作 金原 瑞人 訳 (光村図書4年下)

1 単元について

(1) 児童観

児童は、5月に「白いぼうし」、7月に「一つの花」、10月には「ごんぎつね」という文学的な文章を学習した。「白いぼうし」では、登場人物の人柄や気持ち、場面の情景を想像しながら読むことをねらいとした。そのねらいを達成するために音読発表会を開くことを決め、色やにおいを表す言葉や表現にも気を付けながら読みを深めていった。「一つの花」では、物語の組み立てや表現の特徴を理解し、読んだことを紹介する活動を通して、言葉の意味や書かれていることから想像される事柄、登場人物の気持ちなどを読み取る学習を行った。「ごんぎつね」では、読んで考えたことを話し合う活動を通して、場面ごとの登場人物の行動や心情の変化を詳しく読み取り、それを基に感じたことや考えたことを100字程度にまとめる学習をした。これらの学習を通して、人物の心情の変化を読み取る力は身に付いてきた。しかし、自分の体験と重ね合わせて物語文を読んだり、作品の特徴を捉えて感想をもったりする活動はしておらず、感想文を書く力も十分には身に付いていない。

(2) 教材観

本教材は、主人公である女の子ゼノビアが、「こんなことがあるとお願いがかなうって、よく言うよね。」と読み手に語りかける場面から始まる。そして、「これは、わたしに起こったほんとの話なんだ。」と読み手を話の中に引き込むような書き方をしており、この作品の特徴ともなっている。

1月1日に、自分の誕生した年にできた1セント玉を拾うとお願いが3つかなうということを、ゼノビアは親友のビクターに教えてもらう。しかし、1つ目と2つ目のお願いはよく考えずに使ってしまう。3つ目のお願いは、お母さんとの会話を通して本当に大切なものは何かに気づき、よく考えてお願いをする。

本教材には、等身大の友達関係が描かれている。児童の多くは、友達同士のトラブルを大なり小なり経験しており、親友ビクターと仲直りしたいというゼノビアの気持ちに寄り添うことができる。また、一人称で語られることによって、主人公の心情が地の文や会話文に直接的に表れている。これも、児童が主人公となって物語を読み進め、行動や会話から人物の性格や気持ちを想像して読むことの助けとなっている。児童にとって共感しやすく、感想文を書くのに適した教材である。

(3) 指導観

本単元は、物語や詩を読み、感想を述べ合うこと（「C読むこと」(2)②ア）を言語活動として設定する。

第1次では、物語を読み、初発の感想を書かせた後、「物語を読んで、感想文を書こう」という学習課題を伝える。学習の最後には、初発の感想で書いたものと「感想文」に仕上げたものを比較し、技能の向上を自身で確かめることを伝え、意欲をもたせたい。そこで、感想文を書くためのコツを紹介する。1つ目は物語の内容を把握して書くこと、2つ目は文章構成を考えて書くこと、3つ目は感想文を書くときに使う言葉を増やすことである。物語の読み取りに入る前に、これら3つのコツを提示することで、読みの必然性や見通しをもたせる。

第2次では、感想文を書くための1つ目のコツである物語の内容をつかむ。登場人物の会話や行動からその性格や気持ちの変化を捉え、登場人物と似た自分の体験についてまとめていく。また、作

品の表現の特徴に着目させ、それについて考えさせる。それらは、感想文を書くときの材料となる。

第3次では、学習したことを基に構成を考えて感想文を書き（2つ目のコツ）、グループで交流し合う。感想文は、気持ちを表す言葉などを使って、表現豊かに書く（3つ目のコツ）ことを重視する。グループ交流では、友達の感想文のよさに気付かせたい。その際、付箋を使って考えを書き表すことで、一人一人の感じ方の違いにも気付かせるようにする。また、最初に自分が書いた初発の感想と感想文とを読み比べることで、感想文を書いた充実感や読み取る力・書く力の高まりを実感させたい。

この学習を通して、感想文を書くことを苦手とする児童が一つでも多くの感想や考えをもち、自分の考えを明確に感想文に書き表すことができるようにしたい。そのためには、内容を読み取って自分の考えをまとめることやそれを感想文の構成に生かしていくことなど、「読むこと」と「書くこと」の領域を関連付けながら学習を進めていくようにする。

2 単元の見目標

- (1) 登場人物の性格や気持ち、情景を想像し、自分の体験と重ね合わせながら、読んだり書いたりしようすることができる。
- (2) 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係に注意して文章を構成し、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて読書感想文を書くことができる。
- (3) 叙述に基づいて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを想像しながら読み、文章の引用や要約をして自分の感想をまとめることができる。
- (4) 感想を表すときに使う言葉や表現を選ぶことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・登場人物の性格や気持ち、情景を想像し、自分の体験と重ね合わせながら、読んだり書いたりしようとしている。	・自分の考えが明確になるように、「初め」「中」「終わり」を意識して書いている。 【B書くこと(1)イ】 ・書きたい視点を選び、理由や事例を挙げて感想を書いている。 【B書くこと(1)ウ】	・叙述に基づいて、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを想像しながら読んでい る。 【C読むこと(1)ウ】 ・引用したり要約したりしながら自分の感想をまとめている。 【C読むこと(1)エ】	・感想を表すときに使う言葉を選び、感想文に生かしている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)】

4 指導と評価の計画（全9時間）

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準とその方法
一	1	○「物語を読んで、感想文を書こう」という学習課題をもち、学習の流れを確認する。	・学習の最後に、初発の感想と読書感想文を比較し、技能の向上を確かめることを知らせ、期待感をもたせるような誘いをする。	【関】物語に興味をもち、学習に取り組もうとしている。 〔発言内容とワークシートの記述内容〕

二	2 (本時)	○全文を読み、場面の設定や物語の展開をつかむ。	・教科書の手引きにある視点に沿って読み、物語の大まかな内容を捉えさせる。	【読ウ】視点に沿って読み、物語の内容を捉えている。 〔ワークシートの記述内容〕
	3	○3つの願いを比べながら内容を捉える。	・それぞれの願いが書かれている部分を確認、その内容と結末をおさえる。 ・3つの願いを比べて、似ているところや違うところを考えさせる。	【読ウ】視点に沿って読み、物語の内容を捉えている。 〔ワークシートの記述内容〕
	4	○会話や行動に着目して読み、登場人物の性格を捉える。 ○「ノービィ」と似た自分の体験とそのときの思いをまとめる。	・会話や行動に注意して読ませ、登場人物の性格をまとめさせる。 ・登場人物と自分とを比べさせ、登場人物と似た自分の体験についてまとめさせる。 ・教科書の手引きを参照する。	【読ウ】会話や行動から人物の性格について考え、整理している。 【読エ】自分の体験と結び付けながら、物語の叙述を引用したり要約したりして、自分の思いをまとめている。 〔ワークシートの記述内容〕
	5	○物語の表現の工夫を捉え、「ノービィ」の性格が表れるように音読する。	・一人称の視点で書かれていることについて気付かせ、それによってどんな感じがするか考えさせる。	【読エ】物語の表現の工夫に気付かせ、それについて自分の考えをまとめている。 〔ワークシートの記述内容〕
	三	6	○〈資料〉「やさしい心」を感想文のモデルとして読み、書き方の工夫を見付ける。	・構成の工夫や感想の言葉に気付かせる。 ・感想の言葉については、教科書の手引きや教科書(上)を参考にさせる。
7		○構成を考え、感想文の「初め」「中」を書く。	・教科書の手引きにある手順に沿って書かせる。 ・6時間目までのワークシートを利用させる。	【書イ】構成を考えて感想文を書いている。 【書ウ】理由や事例を挙げて、感想文を書いている。 〔感想文の記述内容〕
8		○構成を考え、感想文の「終わり」を書く。 ○推敲し、仕上げる。	・6時間目までのワークシートを利用させる。 ・3つのコツを使って書いているか確かめながら、自分の感想文を読み直して、仕上げさせる。	【書イ】「初め」「中」とつながり合っている内容を書いている。 【言】感想を表す言葉を使って、表現を工夫している。 〔感想文の記述内容〕
9		○友達と感想文を読み合い、感想を伝え合う。 ○初発の感想と比べ、学習を振り返る。	・よいところを見付けさせる。 ・文章量の増加だけでなく、書き出しの工夫や使用語彙の増加などに着目させる。	【関】友達の感想文を読み、それに対する感想を書こうとしている。 〔付箋の記述内容〕 【読エ】理由を挙げて、友達の

				感想文のよさについてまとめている。 〔付箋の記述内容〕
--	--	--	--	--------------------------------

5 本時の指導（2／9）

（1）目標

「読む視点」に沿って読み、物語の内容を捉えることができる。

（2）展開

学習活動	<p>○指導上の留意点</p> <p>●形成的評価とそれに基づく支援</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○感想文を書くための3つのコツを押さえる。</p> <div data-bbox="831 719 1437 860" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コツ1 物語の内ようを読み取る。 コツ2 「初め」「中」「終わり」の組み立てで書く。 コツ3 思ったことや感じたことを表す言葉を使う。</p> </div> <p>○感想文を書くために、</p> <div data-bbox="831 936 1465 1016" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>コツ1 物語の内ようを読み取る。</p> </div> <p>ことを知らせる。</p> <p>○提示物 コツ1 に印を付ける。</p> <p>○感想文を書くためには、内容をしっかり読み取ることが大切であることを知らせる。</p>
	<div data-bbox="406 1167 1182 1238" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>物語の大体の内ようを読み取ろう。</p> </div> <p>○本時は、物語の大体の内容を読み取っていくことを知らせる。</p>
<p>2 物語を読む視点を確認する。</p>	<p>○「一つの花」で学習したことを思い出させ、物語の内容を捉える際の視点について発表させる。 （時）（場所）（登場人物）（出来事）</p> <p>○教科書 54 ページ上段の手引きを参考に、視点を確認させる。 （時・場所）（登場人物）（出来事）（結末）</p>
<p>3 「三つのお願い」を通読する。</p>	<p>○視点に沿って読ませるために、視点を表す言葉にサイドラインを引かせながら黙読させる。</p> <p>●（出来事）（結末）について読む視点が分からない児童には、ワークシートにある具体的な言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（出来事） → 「初めに」 ・（結末） → 「最後は」 <p>に着目させ、読む視点を確認させる。</p> <p>●（出来事）についてサイドラインを引けない児童</p>

4 視点に沿って読み取ったことをワークシート②にまとめる。

(i) (時・場所) (登場人物) についてまとめ、全体で確認する。

- ・(時) 一月一日
- ・(場所) アメリカ
- ・(登場人物) ゼノビア (ノービィ), ビクター, ママ

(ii) (出来事) (結末) について、読み取ったことを発表する。

- ・(出来事) ゼノビアは、一月一日に自分が生まれた年にできた一セント玉を拾い、
お願いがなかった。 など
- ・(結末) 友達のビクターとけんかしたけれど、
仲なおりした。 など

(iii) (出来事) (結末) についてまとめる。

5 本時の学習の振り返りをして、次時の学習について見通しをもつ。

には、お願いがなかったときのキーワード「どんぴしゃり。お願いがなかった」を知らせ、サイドラインを引かせる。次に、そのキーワードが最初に出てくる (P46L3) までの出来事を口頭で確認し、「だれが」「どうして」「どうなったか」についてサイドラインを引かせる。

● (結末) についてサイドラインを引けない児童には、3つ目のお願いについて口頭で確認し、「だれが」「どうして」「どうなったか」についてサイドラインを引かせる。

○ (時・場所) (登場人物) について、ワークシートにまとめさせ、発表させる。

○ どの叙述で分かるのかについても発表させ、全体で確かめさせる。

○ どの叙述で分かるのかについても発表させる。

○ (出来事) (結末) について、読み取ったことをワークシートにまとめさせる。

評価【読む】「読む視点」に沿って読み、物語の内容を捉えている。

[ワークシートの記述内容]

○ ここで確かめた視点が、感想文を書くときに生かせることを知らせる。

○ 3つのお願いそれぞれの内容については、次時に学習することを伝える。

○ ワークシート②で自己評価をさせる。

○ あらすじだけでは感想文にならないことを押さえ、自分の考えや体験を書き加えていくために、次時はそれぞれのお願いについて詳しく読んでいくことをワークシート①で確かめさせる。